



IPS で世界のプラネタリアンと集いました

去る6月18日から26日までの9日間、福岡市科学館等の会場で、2年に一度の国際プラネタリウム協会（IPS）の大会が開かれ、世界中のプラネタリウム関係者が集いました。その参加者合計800人が活発な議論が繰り広げました。口頭発表200件、ポスター発表50件、ワークショップ15件、パネルディスカッション15件に加え講演やソーシャルイベントが行われ、そしてツアーなども行われ、これは近年にない盛会と言えます。



IPS会場での記念写真。左から齊藤、オレナ、田部、伊藤の各解説員。

世界中のプラネタリウムメーカーもこぞって新製品の発表や、新たな技術開発の紹介に努めました。このような企業ブースが40以上も出展し賑やかです。

ギャラクシティからは、5名の解説員が出席し、それぞれが4件の発表を行いました。伊藤貴大解説員は、まるちたいけんドームの紹介とモバイルプラネタリウムを使ったアウトリーチ活動について、オレナゼムリャチェンコ解説員は、以前働いていたウクライナのプラネタリウムの現在の状況と自身の日本でのプラネタリウム活動について、齊藤美和解説員は、20年以上がけているプラネタリウムイベント「ザバネタリウム」について、田部は、アマチュア天文家が撮影している惑星画像をプラネタリウム投影で用いる方法についてです。オレナ解説員は、世界のプラネタリアンの生解説大会へウクライナ代表として出場し、またモバイルプラネタリウムでも母国語で投影を行っています。GATe（ギャラクシティボランティア）からも協力者として参加した人もいました。世界中の多くのプラネタリウム関係者に、まるちたいけんドームとその活動について広く知ってもらう絶好の機会だったと思います。

2026年8月28日記（解説員：田部一志）